びじねす玉手箱

NEC

ＡＩ（人工知能）を活用し未知のサイバー攻撃を自動検知する「自己学習型システム異常検知技術」を開発

NECは、人工知能（AI）技術を活用し、社会インフラや企業システムなどに対する未知のサイバー攻撃を自動検知する「自己学習型システム異常検知技術」を開発した。

標的型攻撃や新種のウイルスなど、未知のサイバー攻撃は世界規模で激増している。現在のサイバー攻撃対策は、既知の攻撃手法に基づくため、未知の攻撃への対策が困難だ。本技術は、攻撃手法ではなく攻撃を受けたシステムの動作変化のみに基づくことで、全く新しい攻撃への対策を可能にした。PCやサーバなどシステム全体の複雑な動作状態（プログラムの起動、ファイルへのアクセス、通信等）から定常状態を学習（機械学習）し、定常状態と現在のシステムの動きをリアルタイムに比較・分析することで、定常状態から外れた場合の検知を可能に。システム管理ツールやSDNなどを活用することで、該当箇所のみをネットワークから自動で隔離できる。

システム動作の詳細な把握により、従来の人手による作業に比べ、1/10以下の時間で被害範囲の特定が可能となり、システム全体を止めることなく被害範囲の拡大を最小限に抑える高精度な異常検知と防御を実現する。

NECは、本技術を社内システムのサーバに適用する実証を行い、模擬攻撃を全て検知できた。今後、発電所や工場など重要インフラ施設のシステムへの適用を目指し、2016年度中に実用化する予定だ。

● NEC　研究企画本部　プロモーショングループ
URL：http://jpn.nec.com/press/201512/20151210_01.htm

CTC

汎用サーバによるストレージシステム「Custom Order Storage」を提供開始
～応答速度や容量、拡張性などの目的に応じてSoftware Defined Storage技術で柔軟なストレージを構成～

伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）は、ソフトウェアで高度なストレージ機能を実現するSDS（Software Defined Storage）技術を使用して、お客様の要望に応じたストレージを汎用IAサーバで柔軟に構成するストレージシステム「Custom Order Storage」の提供を開始した。

仮想化技術やビッグデータの普及に伴い、データを保存するストレージに対する要望は、処理速度や拡張性、コスト面でのメリットなど、使用環境により重視される要件が多様化している。ソフトウェアでストレージシステムを実現するSDS技術は、特定のベンダーに依存せずに自由にストレージを構成できる点で注目が集まっている。しかしSDSによるストレージは、使用するサーバや組み合わせにより性能や実現できる機能が異なるため、目的に応じた適切な製品の選択と構成が必要だ。

CTCの「Custom Order Storage」は、要望に応じて柔軟に構成・変更ができるストレージシステムだ。アセスメントサービスやワークショップでお客様のシステム状況や用途のヒアリングを行い、汎用IAサーバとSDS製品を組み合わせて最適なストレージを提供する。また入に際しては、システム構築におけるノウハウとCTCの総合検証センター「Technical Solution Center」を活用して、要望に適した性能や容量のストレージ環境を構築していく。

●伊藤忠テクノソリューションズ
TEL：03-6203-4100

NEWS

SAPジャパン

SAP HANA プラトフォームの最新版「SPS11」を発表
～デジタル変革を支援する統合アプリケーションプラットフォーム～

SAP ジャパンは、SAP HANA プラットフォームの最新版「SAP HANA SPS11」の提供を開始した。

SAP HANA は、コアビジネスアプリケーションを稼働させるだけでなく、競争を勝ち抜くインサイトを獲得するためのリアルタイムアプリケーションの構築プラットフォームとしても利用可能だ。インメモリデータベース機能をはじめ、アプリケーションサービス、高度なデータ処理とデータ統合機能を単一の統合プラットフォーム上で提供するなど、複雑な企業 IT のシンプル化を促進するプラットフォームだ。

最新版の「SPS11」では、新しい高可用性機能と対障害性機能を提供する。新しいホットスタンバイ機能を利用することで、プライマリデータベースから継続ログリプレイによってデータが同期されているスタンバイデータベースへの切り替えを瞬時に行うことができる。また、データベースダウン時のログとパラメータの分析機能により、障害時点からの復旧を行うことでデータベース復旧時間を短縮化する。

SAP は、継続的にプラットフォームのオープン性にコミットし、お客様への選択肢を提供している。「SPS11」では、IBM Power System へのサポートを拡大し、SAP Business Suite for SAP HANA 及び、SAP Business Warehouse for SAP HANA スケールアウトシナリオ、本稼働環境での仮想化利用をサポートしている。

● SAP ジャパン
TEL：0120-786-727

レッドハット

ネットワークと Linux コンテナの革新を促進する「Red Hat Enterprise Linux 7」の最新バージョンを発表

オープンソースソリューションのプロバイダーとして世界をリードするレッドハットは、「Red Hat Enterprise Linux 7」の最新バージョンである「Red Hat Enterprise Linux 7.2」の提供開始を発表した。

「Red Hat Enterprise Linux 7.2」は、現在のエンタープライズのニーズに対して妥協することなく、情報テクノロジーの未来に続く信頼すべき道筋を提供することによって、エンタープライズオペレーティングシステムを再定義するという Red Hat の目標を受け継ぐ製品だ。新しい特徴および機能は、セキュリティ、ネットワーク、およびシステム管理を主眼とするとともに、Linux コンテナベースのアプリケーションの開発とデプロイメントのためのエンタープライズ対応ツールに引き続き重点を置いている。さらに、既知のリスクと技術的問題を予防的に特定し IT の効率を向上させダウンタイムを短縮するようにデザインされたアドオンの運用分析製品である、新しい「Red Hat Insights」との互換性を備えている。レッドハットの Jim Totton 副社長兼ゼネラルマネージャーは「最重要ビジネスアプリケーション向けの高い安定性と信頼性を備えたことにより、セキュアなプラットフォームの提供という重点目標を維持しつつ、コンテナ化アプリケーションデプロイメント用の新機能と大幅なネットワークの強化を実現しています」と語っている。

●レッドハット
TEL：03-5798-8550

びじねす玉手箱

日本オラクル

パートナー企業による「Oracle Cloud」を活用した13のソリューションを発表
～初開催となる「POCOコンテスト」受賞企業11社を発表～

日本オラクルは、パートナー企業11社によるオラクルのパブリック・クラウド・サービス「Oracle Cloud」を活用した13種類のソリューションを発表した。

今回、発表した13のソリューションは、日本オラクルが推進する、クラウドをより簡単に分かりやすく、迅速に使える仕組みを構築していく取り組み「POCO (The Power Of Cloud by Oracle)」の一環として、オラクルのパートナー支援制度「Oracle Partner Network (OPN)」に加盟するパートナー企業を対象に行われた「POCO コンテスト」に応募されたものだ。今回初めて実施された「POCO コンテスト」では、応募された多数ソリューションの中からオラクルのSaaSとPaaSを含む「Oracle Cloud」で実現する具体的な実績・実例を審査し、「POCO コンテスト」受賞ソリューションとしてパートナー企業11社による13のソリューションを選定した。受賞企業のソリューション紹介は「日本オラクル POCO コンテスト サイト」で見ることができる。

多くのパートナー企業が「Oracle Cloud」における今後のビジネスの成功を期待している。オラクルは、OPNを通して多数のプログラムを提供しており、パートナー・コミュニティの拡大を支援している。そして、OPNパートナーに対し、お客様がクラウドへの移行に必要なツール、テクノロジー、専門知識を提供することで、パートナー企業とともに、成長市場でのビジネスを推進していく考えだ。

●日本オラクル
TEL：03-6834-4837

日本ストラタステクノロジー

無停止型サーバシステム「ftServer」のLinux対応版モデルの販売を開始
～業界トップクラスの高可用性と超高速の持続的なトランザクション処理が可能に～

日本ストラタステクノロジーは、最新版無停止型サーバシステム「ftServer」のRed Hat Enterprise Linux対応モデルの販売を開始することを発表した。

「Red Hat Enterprise Linux Server 7」を搭載する新たなモデルftServer2800/4800/6800は、最新のインテルXeon E5-2600 v3プロセッサを採用し、75%を超えるパフォーマンス向上を達成（同社旧モデル製品との性能比較）。通信処理におけるジッタを徹底的に除去しレイテンシを低減することにより、連続可用性と高性能トランザクション処理を実現。ネットワーク処理での高レスポンスを要求されるオンライン処理や金融アプリケーション、VoIPなどの通信分野において高パフォーマンスを発揮している。

さらに、高性能アプリケーションネットワークソリューションを提供するSolarflare社とのパートナーシップにより、クリティカルなLinuxベースのアプリケーションに業界最先端の連続可用性とパフォーマンスを実現。Solarflare製品とストラタスの最新版高信頼性プラットフォーム製品ftServerおよびftScalableストレージアレイを統合する今回の強力なパートナーシップにより、金融取引プラットフォームの無停止運用が実現するとともに、市場トップレベルの高速処理が可能となり、市場におけるリーダーシップを確かなものにしている。

●日本ストラタステクノロジー
TEL：03-3234-5562

NEWS

フォーティネット

「FortiGard Labs」を日本に開設

フォーティネットは、日々増大するサイバー攻撃に対処するための脅威インテリジェンスをお客様に提供するため、「FortiGuard Labs」を日本に開設したことを発表した。

フォーティネットのセキュリティ研究部門である「FortiGuard Labs」では、200名以上のセキュリティ研究者が、世界の脅威動向を絶えずモニタリングし、マルウェアやボットネットの監視、マルウェアのリバースエンジニアリング、シグネチャの作成、ゼロディ攻撃の分析などを行っている。セキュリティアプライアンスで世界トップのシェアを持ち、220万台以上の出荷実績を誇るFortiGateは、「FortiGuard Labs」のインテリジェンスによってお客様のネットワークをサイバー攻撃から保護している。FortiGateは、「FortiGuard Labs」にとって脅威情報を得るための重要なセンサーであり、シグネチャを作成し、タイムリーに自動配信することで、常に最新の脅威からお客様を守っている。

日本における「FortiGuard Labs」では、以下の活動を行う予定だ。

- FortiGuard Labsの脅威インテリジェンスのうち、日本のお客様に有益な情報を日本語で提供
- 日本を標的としたサイバー攻撃をプロアクティブに分析し、「FortiGuard Labs」に情報をフィードバック
- 日本の各種CERTおよびセキュリティ関連の業界団体と連携し、セキュリティの啓蒙活動を推進

●フォーティネットジャパン
TEL：03-6434-8572

アクセンチュア

オープンイノベーションにおける日本の中核を目指す「アクセンチュア・オープンイノベーション・イニシアチブ」を設立

アクセンチュアは、日本でのオープンイノベーションの中核を目指す組織として、国内外のスタートアップ企業の技術、アイデアの集積から、それら技術やアイデアを活用した新規事業の創出支援や、地域市民を巻き込んだ地域課題の特定・解決まで、企業の成長や社会の課題解決などに資するオープンイノベーションを生み出す幅広い活動を集約させた「アクセンチュア・オープンイノベーション・イニシアチブ」を設立した。

デジタル化の急速な発展に伴い、あらゆる企業や組織、個人はデジタル技術を活用することで、市場に創造的な破壊をもたらすイノベーションを創出することが可能となった。一方、多くの企業では、成長戦略の実現や競争優位の確立のために、最適なデジタル技術や協業先を見極めることが非常に困難な状況だ。また、革新的なデジタル技術を広く迅速に社会に浸透させていくためには、業界や組織の壁を越えたエコシステムの構築が必須だ。「アクセンチュア・オープンイノベーション・イニシアチブ」は、アクセンチュアのグローバルにおけるオープンイノベーションプログラムの一環であり、大企業とスタートアップ企業、教育・研究機関、地域社会など様々なプレイヤーをつなぐ橋渡し役を担うことで、企業や組織、地域社会が抱える課題の解決に向けて必要となる人、技術、アイデア、情報などが集約された、オープンイノベーションにおける日本の中核を目指していく。

●アクセンチュア
TEL：045-330-7157